

今年の TAP は団地でアート！？

これまで取手市内で様々な活動を展開してきた取手アートプロジェクト（TAP）は 2008 年で 10 年目を迎えます。節目の年にあたる本年は茨城県内で第 23 回国民文化祭・いばらき 2008 が行われ、TAP は取手市における「現代アートフェスティバル in 取手」の中心としても位置づけられています。「公募展」の年にあたる本年は、全国から作品プランを募集し、11 月の会期に向け、市内にある取手井野団地にてレジデンス（滞在制作）を行うと共に、住民との交流を図ります。また制作された作品は取手井野団地を中心とする市内各所に展開されます。



ついに参加アーティスト 23組が決定！

TAP2008 では、「団地でレジデンス、あなたならどうする？」をテーマに、今年のメイン会場である取手井野団地を中心に展開する作品プランを全国公募で募集しました。プランの応募総数は、実に 88 件！ 8 月 10 日に行われた、審査員：みかんぐみ（建築家ユニット）遠藤水城（キュレーター・ARCUS Project ディレクター）岡田利規（チェルフィッチュ主宰／演劇作家・小説家）熊倉純子（東京芸術大学准教授）彦坂勝弘（取手井野団地自治会会長）を迎えての公開選考会を経て、ついに 13 組の選出アーティストが決定しました！

本件に関するお問い合わせ

取手アートプロジェクト実施本部

〒302-0024 茨城県取手市新町 2-3-16

TEL/FAX : 0297-72-0177 (OPEN : 火・金 13:00 ~ 17:00)

E-mail : tap-info@ima.fa.geidai.ac.jp

Web : <http://www.toride-ap.gr.jp>

担当：中山亜美（080-5544-6597）

中島麻未（080-5535-5419）

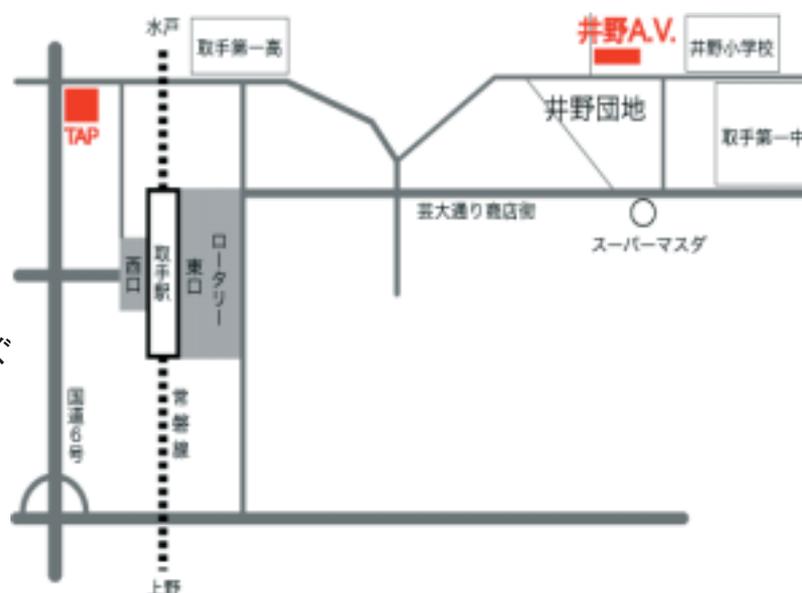
30日、31日に

みかんぐみと14組のアーティストが集結！

選出アーティストの取手井野団地でのレジデンス（滞在制作）に先駆け、8月30日（土）、31日（日）の2日間に分けてTAP2008のゲスト・プロデューサーである曾我部昌史氏（みかんぐみ）を招き、公開選考会で選出された14組の選出アーティストと井野アーティストヴィレッジ101にて打ち合わせをおこないます。選出アーティストにとっては、レジデンスをおこなう場での作品プラン実現に向けてスタートを切る日であり、また、アーティスト同士の交流や、情報、意見交換を図る貴重な2日間となります。会場には、選出アーティストの作品プランのプロポーザル、ポートフォリオも展示しております。

8月30日、31日にゲスト・アーティストと選出アーティスト、TAPとが一同に集結し、TAP2008実現に向けて本格的な一歩を踏み出します。

- 会場：井野アーティストヴィレッジ 101
- 日時：8月30日（土）10：00～16：00
31日（日）10：00～14：00
- アクセス：JR常磐線取手駅東口より徒歩15分
取手駅東口より関東鉄道バス「井野団地」下車すぐ
- 住所：302-0012 茨城県取手市井野団地 3-16



TAPとは

1999年より市民・取手市・東京藝術大学の三者が共同で企画・運営しているアートプロジェクト。全国から作品を募集し、取手市街に設置する公募展と、取手在住作家の紹介およびアトリエ公開をするオープンスタジオを隔年で開催している。これらの活動を通し、市民が身近な場で芸術にふれられるまちを目指すと同時に、創作活動が続ける若いアーティストたちに発表の機会を提供する。また、運営に市内外からアートマネジメントや、まちづくりに興味のある新しいスタッフを定期的に受け入れることで、社会と芸術のつなぎ手となる人材育成にも力を注ぐ。発足以来、取手市が芸術文化の息づくまちとして発展していくように活動を続けている。

本展覧会概要

取手アートプロジェクト2008

「取手井野団地 電気・ガス・水道・アート完備」

会期 2008年11月1日（土）・2日（日）・3日（祝）・7日（金）・8日（土）
9日（日）・14日（金）・15日（土）・16日（日）

会場 取手井野団地を中心とする茨城県取手市内各所

参加アーティスト

ゲスト・プロデューサー みかんぐみ(建築家ユニット)

ゲスト・アーティスト 齋藤芽生(画家)
生意気(クリエイティブユニット)
Port B(演劇ユニット)

国際交流プログラム参加アーティスト 金沢寿美 鈴木勲 山中カメラ
daily Wol-Sik KIM Woo-Young KANG

公開選考会選出アーティスト（五十音順） 奥健祐+鈴木雄介 奥中章人
オニワラボ×グリーン情報 カトウチカ
毛原大樹×中島佑太 佐藤未来 柴田祐輔
Do-it-Your Media Center
日本大学工学部佐藤慎也研究室
畑山理沙 宮田篤 柳川瀬祐子+工藤千尋
吉永ジェンダー

主催＝取手アートプロジェクト実行委員会(取手市、東京芸術大学、アート取手、取手市教育委員会、取手市商工会、財団法人取手市文化事業団、茨城みなみ農業協同組合、取手美術作家展)
第23回国民文化祭・いばらき2008(文化庁、茨城県、茨城県教育委員会、取手市、取手市教育委員会、第23回国民文化祭茨城県実行委員会、第23回国民文化祭取手市実行委員会)
茨城県南芸術の門創造会議(茨城県、取手市、守谷市、取手アートプロジェクト実行委員会、アーカスプロジェクト実行委員会)

助成＝財団法人地域創造

協賛＝麒麟ホールディングス株式会社／東日本ガス株式会社／株式会社安井建築設計事務所／株式会社新六本店／取手ロータリークラブ／有限会社長谷商事

協力＝取手井野団地自治会／独立行政法人都市再生機構／財団法人茨城住宅管理協会／関東鉄道株式会社／Seoksu Art Project

認定＝社団法人企業メセナ協議会

平成20年度文化庁「文化芸術による創造のまち」支援事業

参加アーティスト

ゲスト・プロデューサー



■みかんぐみ（建築家ユニット）

現在は加茂紀和子、曾我部昌史、竹内昌義、マニユエル・タルディッツの4人による建築設計事務所。1995年にみかんぐみ共同設立（当時有限会社、2002年から株式会社）。コラボレーションやワークショップも積極的に行い、さまざまな角度から制作活動を行っている。住宅、公共建築作品のみならず、横浜トリエンナーレの《FMヨコトリ・チケットブース》（2005）、BankART NYKの《ハンガートンネル》（2005）や、越後妻有アートトリエンナーレにおいて空家を再生した《BankART妻有》（2006）など、現代アートからも大きな注目を集めている。また、団地について考察した『団地再生計画』（INAX 出版 2001）がある。

ゲスト・アーティスト



■齋藤芽生（画家）

東京、八王子の団地に生まれ7歳まで居住。1996年東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻入学。2001年東京芸術大学大学院後期博士課程油画専攻修了。現在、東京芸術大学美術学部講師（絵画科油画）。緻密な絵画と言葉により失われ往く日本の情念や文学性を描きだす。「団地」「花輪」「凶鑑」などを重要なテーマとしており、団地の無機質で画一的な窓に生きる多彩な存在を描いた《晒野団地入居案内》、廃墟化する団地を祠（ほこら）にみたてた《晒野団地四畳半詣》などがある。TAPでは団地の一部屋を用いたインスタレーションを予定。



■生意気（クリエイティヴユニット）

ニュージーランド生まれのディヴィッド・デュバルー・スミスとイギリス生まれのマイケル・フランクによるクリエイティヴ・ユニット。グラフィックを中心にハードなゴスペルミュージックや大工仕事、ガーデニングなど、持ち前の遊び心で幅広く活動している。2005年から空き地緑化 graffiti プロジェクト（食べれる植物の種まき）を始め、今は鎌倉でフードジャングルを作っている。



■Port B（演劇ユニット）

2002年東京にて結成。高山明を中心とするプロジェクトユニット。活動は多岐にわたり、プレヒトの第一詩集『家庭用説教集』を素材に「教育劇とは何か」を探った作品や、H ミュラー《ホラティ人》、E シュレーフ《ニーチェ》、E イェリネク《霊。家。》など「演劇（的）テキスト」に取り組んだ舞台を作る一方で、高島平をフィールドワークした成果を謡曲『隅田川』にクロスさせ、失われた「都市の夢／個人の夢」を吊った《Re:Re:Re:place ～隅田川と古隅田川の行方（不明）～》といったドキュメンタリー性の強い舞台が他方にある。更に実際の都市をインスタレーション化する”ツアー・パフォーマンス”を都内各所で展開、巣鴨地藏通りを歩く《一方通行路 ～サルタヒコへの旅～》、はとバスを使った《東京／オリンピック》、サンシャイン60周辺を巡った《サンシャイン 62》などがある。

国際交流プログラム参加アーティスト



■金沢寿美

1979年兵庫県神戸市にて、在日韓国人3世として生まれる。京都精華大学大学院芸術研究科卒業。スペイン（1998）韓国（2006）への留学を経験。人間社会における集団性の問題をテーマに多くの作品を制作。『取手アートプロジェクト2002』では、取手市の境界線をモチーフに地域の特色・問題をテーマとした作品を発表。近年の作品では、『神戸アートアニュアル』（2004）において商店街の人々との交換日記を通じ、個々の人生と地域（社会）との関連性（歴史的）をテーマとした作品を発表。



■鈴木勲

1969年東京生まれ。美術家兼旅人兼エコロジスト。旅とエコロジーをそれぞれ美術作品として可視化している。2001年以降、ソーラー・サイクルリクシャーによる北インド8大聖地巡礼、太陽光・風力発電と電動アシスト自転車によるモンゴル横断（2002）、電動アシスト自転車によるヒマラヤ越え（2006）、舞踊家田中泯さんの耕運機を借りて廃油を燃料とした山梨県白州から琵琶湖周遊（2007）など、地球規模でエコロジカルな旅を実現している。現在、廃プラスチック油化燃料によるモペットバイク日本縦断の旅を計画中。昨年はeco japan cup 2007カルチャー部門にてエコアート・グランプリを受賞。



■山中カメラ

1978年山口県生まれ。特殊写真家・パフォーマー。村上隆のGEISAI6にて「銀賞」受賞（2004）。とう魔とうじ主宰「フロント」所属。自作の写真、映像、歌が融合した独特の「カメラショー」をライブ形式で展開。撮影行為自体をパフォーマンス作品とした《一人合唱》でNHK デジタルスタジアム、デジタルアートフェスティバル東京（2007）出演。またカメラを使って握る《カメラ寿司》などのパフォーマンス。自作の写真装置《オッパイカメラシステム～恥部写》を使った撮影パフォーマンス。取手アートプロジェクト2006では、オンド・マルトノを使った《マルトノ音頭》作曲、振り付け。横浜 BankART では7日間に渡り行なわれた『W あつしの大運動会』（2007）をプロデュースするなど、活動の範囲は多岐に渡る。

■daily

■Wol-Sik KIM

■Woo-Young KANG

公開選考会選出アーティスト（五十音順）

■奥 健祐＋鈴木 雄介（クリエイティブユニット）

奥健祐と鈴木雄介の2人がTAP参加のため結成したユニット。共にSurvival in Tokyo lab.の一員として制作活動を行っている。主なプロジェクトに「Private space in Public space」「Lodging Tokyo」「Hitching the sky」など。川俣正「通路」展／東京都現代美術館（2008）参加。

■奥中章人（芸術家）

2004年 静岡大学教育学部学校教育教員養成過程美術教育専修卒業。

2001年～ 東海圏の様々なオルタナティブスペース、オルタナティブイベントで発表。

近年はダンスや舞踏、パフォーマンスとの共演に加え、演劇やロックフェスでの空間演出も手がける。昨年リトアニアでの国際展参加を皮切りに海外での活動計画を進行中。

■オニワラボ × グリーン情報（お庭研究会、花と緑の専門情報誌によるコラボレーション）

「オニワラボ」は、庭、場所、都市、植物など、「庭」に関連ある事柄についての自主研究会である。東京芸術大学先端芸術表現科の在学生中心とした7名のメンバーで、取手市を拠点に活動。今回は花と緑の専門情報誌として30年にわたり園芸・花卉産業を取りあげてきた「月刊グリーン情報」が、企画協力として参画。

■カトウチカ（アーティスト）

2002年 東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻卒業

2008年 個展「Between」Azabu Art Salon Tokyo

映像イベント Art meets Mac - bicameral world-

『食と現代美術 Part 4, 横浜芸術のれん街』BankART 1929 企画（横浜）

2007年 店内展示「Farther and Closer」NADiff 表参道

展覧会『都市との対話展』BankART NYK, 神戸

アートセンターヴィツレッジ

■毛原大樹 × 中島佑太（アーティスト）

2005年 「FMヨコトリ」への参加をキッカケに自由ラジオを行うようになる。

2006年 一週間限定で神田錦町にあるカンダダにて「FM-dada」を企画し、「the one block radio」などを放送する。

2007年～2008年 ○毛原を中心に台東区旧小島小学校に垣根を超えて有志を募り「コジマラジオ」を開局。年間を通してミニFMを活用した場所づくりを研究し活動する。今までに、ラジオとワークショップの連動企画「中島☆記念日」などを放送。

■佐藤未来（美術家）

現在、武蔵野美術大学在学中。

日々の生活や海外旅行時に感じる日本の文化や社会にある矛盾、また愛国心などをもとに、さまざまな素材、メディアの作品を制作。

■柴田祐輔（美術作家）

武蔵野美術大学大学院美術専攻版画コース修了。これまでに超無機質な理想を提案するモデルハウスのCG広告、オフィス空間に敷かれるタイルカーペット、記者会見のフラッシュの光などをモチーフに、加速する私たちのイメージが作り出す現実の圧倒的な違和感に注目した作品を制作。版画、映像、写真、インスタレーション、パフォーマンスなど様々な表現手段による作品を発表している。

■Do-it-Your Media Center

芸術表現そのものではなく、むしろその周辺にあるメディアコミュニケーションを活動の軸におくことで、表現者と居住者、アートと社会の接続をはかり、そこから生まれるさまざまな関係性や状況をつくりだす《アート&デザイン社会システム創成ユニット》。

■日本大学理工学部佐藤慎也研究室（建築家）

佐藤慎也（日本大学理工学部建築学科助教）を中心とした研究室。2007年発足後、「建築とアート」をテーマに、芸術文化施設の建築計画に関する研究を行っているほか、建築、アート、演劇などさまざまなプロジェクトに参加している。07年に『蔵メール』（ヒミング・2007、富山県氷見市）、『3×M1=キョテン』（取出アートプロジェクト2007、茨城県取手市）でアートプロジェクトに参加。08年には、建築展「U41@NU 40歳以下の日大出身建築家展」

■柳川瀬祐子+工藤千尋（おと と もの ことば ユニット）

柳川瀬祐子

1981年 兵庫県生まれ。

日常にある音や、機会を壊した音、人の声などを楽器と織り交ぜた楽曲制作を行う。

工藤千尋

1981年 秋田県生まれ。

物と言葉による物語を作り続ける。

フェティッシュではあるが、ナラティブな作品を発表。

■畑山理沙（メディアアーティスト）

カナダケベック州モンリオール在住。南アルバータ工科短期大学を修学後、2005年にはケベック州モンリオールのコンコルディア大学写真科を卒業。存在主義やシュールレアリズム文学に強く影響を受ける一方で、写真やビデオ等をベースとした独自の多感覚型のインスタレーションを中心にメディアアーティストとして制作活動続ける。

■宮田篤（アーティスト）

愛知県立芸術大学大学院美術研究科美術専攻在籍。08年片岡珠子奨学基金を得てオランダ短期滞在。

最近は人とのかかわりあい自体を作品にしてしまうような活動が目立っているが、実はペインティングやドローイング、立体作品も手がける多才なアーティスト。主な個展に、07年「はくぶつ感」(U8projects / 愛知)、08年、「しょうがく感」(アーカス・スタジオ / 茨城)。その他の活動に07年ワークショップ「びじゅつ感」(名古屋美術館 / 愛知)、「W あつしの大運動会」(BankART1929, BankARTstudioNYK / 神奈川) ほか。

■吉永ジェンダー（己美術家）

己美術家。主に己をテーマとした写真作品や、過度に装飾的な彫刻作品を制作する。コンセプチャルな美術を嫌い、バカバカしさやロココティックな華々しさを大いに好む。みための面白さだけを追求するその作品スタイルは圧巻。常にノリだけで制作方針を決定する極めてプリミティブな作家。